一日一題

中小企業だからこそ

岡山県中小企業家同友会代表理事 松尾 正男

今は先が読めない時代と言われる。世界情勢は混沌(こんとん)とし、日本企業を取り巻く経営環境も日々変化し続けている。5年後はおろか、1年後の情勢すら予測が困難と語る経済学者や政治学者もいる。しかし、だからと言って手をこまねいているだけでは企業の将来ビジョンは描けない。

国土交通省の「国土の長期展望に向けた検討の方向性」によると、2050年の日本の姿を05年と比較して次のように予測している。①人口は3300万人が減少し9515万人に②国土の66%で人口が半減③居住地域の22%が無居住化④生産年齢人口は3500万人減少⑤高齢者は1200万人増加―。また人工知能やIoT(モノのインターネット)などの普及により消失が予想される職業も少なくない。不透明な時代ではあるが、これらは「確実に予測できる未来」である。経営者はこうした環境の変化を正しくとらえられているだろうか。

中小企業家同友会は、経営者である以上、いかに環境が厳しくとも時代の変化に対応して経営を維持し発展させる責任があることを強調している。経営環境の激変にも対応できる強靭(きょうじん)な経営体質を持った企業は、地域の信頼を得てさらに発展することができることをわれわれは確信している。

大企業には大企業の役割があるが、中小企業にも中小企業でなければ担えない役割がある。大企業を自由意志でどこにでも移動できる動物に例えれば、中小企業は地域に根を張り、地域と共に成長し果実を実らせる植物のようなものだ。落とした種からは新しい芽が吹き、葉を茂らせ、年輪を重ねながら豊かな生態系を形成する。地域を肥やしていくためには、そんな生命力あふれる中小企業が増えることが必要だ。その意味で当会の活動は森づくりにも似ているかもしれない。この壮大な運動に、一人でも多くの志ある仲間に加わってもらいたいと念願している。

2017・7・26